

モニタリングサイト1000



モニタリングサイト1000

シギ・チドリ類調査 ニュースレター

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

2020年春期概要

2020年春期結果の概要

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査の2020年度春期の概要をお知らせします。



前年度から個体数はやや増加

2020年度春期調査は、2020年4月1日から2020年5月31日までの期間実施されました。新型コロナウイルスのため活動が制限される中、118ヶ所の調査サイトで調査が実施され、このうち一斉調査（2020年4月26日を基準日とした前後1週間の調査）への参加は93ヶ所でした。例年に比べほぼ遜色のないレベルで調査が実施できました。ご協力ありがとうございました。一斉調査期間では、シギ・チドリ類 45種31,313羽、ツクシガモ366羽、ヘラサギ6羽、クロツラヘラサギ124羽、ズグロカモメ47羽が記録され、春期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類 52種69,344羽、ツクシガモ844羽、ヘラサギ21羽、クロツラヘラサギ244羽、ズグロカモメ301羽が記録されました。



Fig1. 春期調査における全サイトと継続調査しているサイトの最大個体数合計の推移（2000年から2020年の継続サイトN=39）年次変動の大きいヒレアシシギ類は除外

2000年春期以降の「全サイト」と「調査が継続されているサイトのみ」の最大個体数の合計を、ヒレアシシギ類を除いてグラフに示しました（Fig1）。全サイトの最大個体数の合計は、前年度春期と比べ6,189羽増加し69,344羽、継続サイトでは前年度春期と比べ4,194羽増加して41,795羽となりました。全サイト、継続サイトともに、前年に比べ約10%増加しています。100羽以上観察されたサイトのうち前年度比で減少数が大きいサイトは^{だいじゅがらみ}大授搦（佐賀県）が突出しており、減少率が大きいサイトは九十九里浜北部（千葉県）、霞ヶ浦南岸稲敷市浮島（茨城県）などでした（Table1）。増加数の大きいサイトは曾根干潟（福岡県）、早津江川河口（佐賀県）が多く、増加率でも曾根干潟（福岡県）が大きくなっていますが（Table2）、調査時期の違いによる可能性があります。

Table1. 春期調査における減少数と減少率の上位5サイト

| | 2019年 | 2020年 | 減少数 | 減少率 |
|-----------------|-------|-------|-------|--------|
| 大授搦 | 18332 | 15461 | -2871 | -15.7% |
| 吉野川下流域 | 1398 | 891 | -507 | -36.3% |
| 新川～木戸川（九十九里浜北部） | 705 | 243 | -462 | -65.5% |
| 鹿島新龍海岸 | 2230 | 1843 | -387 | -17.4% |
| 氷川 | 1330 | 1032 | -298 | -22.4% |

| | 2019年 | 2020年 | 減少数 | 減少率 |
|-----------------|-------|-------|------|--------|
| 新川～木戸川（九十九里浜北部） | 705 | 243 | -462 | -65.5% |
| 霞ヶ浦南岸稲敷市浮島 | 400 | 160 | -240 | -60.0% |
| 愛宕川～榎田川河口 | 371 | 193 | -178 | -48.0% |
| 吉野川下流域 | 1398 | 891 | -507 | -36.3% |
| 栃木県南部水田地帯 | 235 | 161 | -74 | -31.5% |

Table2. 春期調査における増加数と増加率の上位5サイト

| | 2019年 | 2020年 | 増加数 | 増加率 |
|-------------|-------|-------|------|----------|
| 曾根干潟 | 15 | 1857 | 1842 | 12280.0% |
| 早津江川河口（川副町） | 895 | 1914 | 1019 | 113.9% |
| 濤沸湖 | 301 | 1230 | 929 | 308.6% |
| 白川河口 | 674 | 1523 | 849 | 126.0% |
| 泡瀬干潟 | 528 | 1373 | 845 | 160.0% |

| | 2019年 | 2020年 | 増加数 | 増加率 |
|-------|-------|-------|------|----------|
| 曾根干潟 | 15 | 1857 | 1842 | 12280.0% |
| 盤洲 | 16 | 627 | 611 | 3818.8% |
| 邑知潟 | 3 | 115 | 112 | 3733.3% |
| 高瀬川河口 | 52 | 497 | 445 | 855.8% |
| 鳥の海 | 157 | 884 | 727 | 463.1% |



優占上位種の個体数が増加

最大個体数における優占種の上位種は、ハマシギ（44.6%）、トウネン（10.9%）、チュウシャクシギ（10.4%）で、前年度順位から、チュウシャクシギとトウネン、キアシシギとダイゼンが入り替わりました。6位以降では、メダイチドリが順位を上げています（Fig2）。

種別の減少数では、ホウロクシギ（-1,234羽）、ダイゼン（-491羽）、キョウジョシギ（-187羽）の減少数が大きくなっていました（Table3）。ホウロクシギは減少数、減少率とも突出していますが、2019年度の

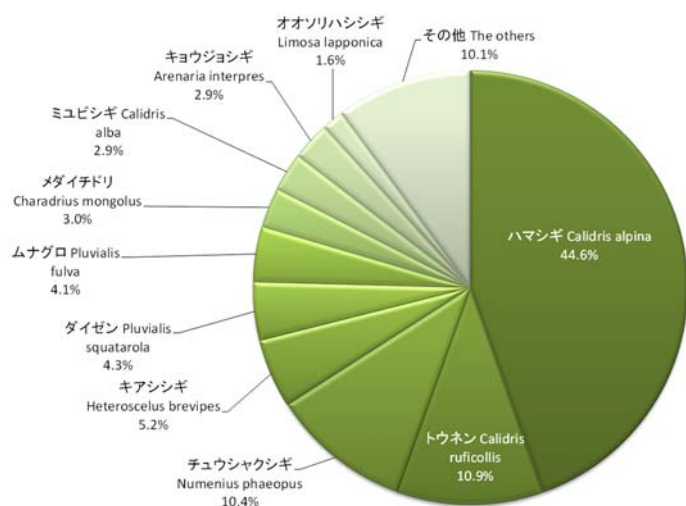


Fig2. 2020年春期調査におけるシギ・チドリ類の種構成

Table3.春期調査における最大個体数の増加数・減少数の上位5種

| | 2019年 | 2020年 | 減少数 | 減少率 |
|----------|-------|-------|-------|--------|
| ホウロクシギ | 1369 | 135 | -1234 | -90.1% |
| ダイゼン | 3501 | 3010 | -491 | -14.0% |
| キョウジョシギ | 2167 | 1980 | -187 | -8.6% |
| ミヤコドリ | 921 | 755 | -166 | -18.0% |
| シロチドリ | 707 | 575 | -132 | -18.7% |
| | 2019年 | 2020年 | 増加数 | 増加率 |
| ハマシギ | 27746 | 30918 | 3172 | 11.4% |
| トウネン | 5269 | 7570 | 2301 | 43.7% |
| メダイチドリ | 1327 | 2060 | 733 | 55.2% |
| ソリハシシギ | 544 | 904 | 360 | 66.2% |
| チュウシャクシギ | 6872 | 7227 | 355 | 5.2% |

記録が例年の6倍ほど観察記録されていたため、昨年が特別な状況だったようです。また個体数が増加した種は、ハマシギ（+3,172）、トウネン（+2,278）、メダイチドリ（+733）で優占種上位の種が多く（Table3）、100羽以上の観察があった種での増加率では、ツルシギ、アカエリヒレアシシギ、セイタカシギ、ソリハシシギ、メダイチドリなどが50%以上の増加率がありました。



チュウシャクシギ個体数の減少

チュウシャクシギは、秋期よりも春期に観察個体数が多い渡り鳥です（Photo1）。その春期のチュウシャクシギは減少傾向にあ



Photo1. チュウシャクシギ
Photo by Toshifumi Miki

り、モニ1000のデータから個体数は2000年の約2/3になっていると推測されます（Fig3）。チュウシャクシギは、夜間に集まってねぐらをとる習性があり、春期に集団ねぐらが観察されていましたが、ねぐらも個体数の減少や移動分散が起きているようです。利根川下流域の集団ねぐらでは、2003年に1,000羽以上の観察がありましたが、現在は数百羽になっています。休耕田や干潟をねぐらとして利用しているため、安心してねぐらとして利用できるそうした環境が少なくなってきたのも減少の要因かもしれません。

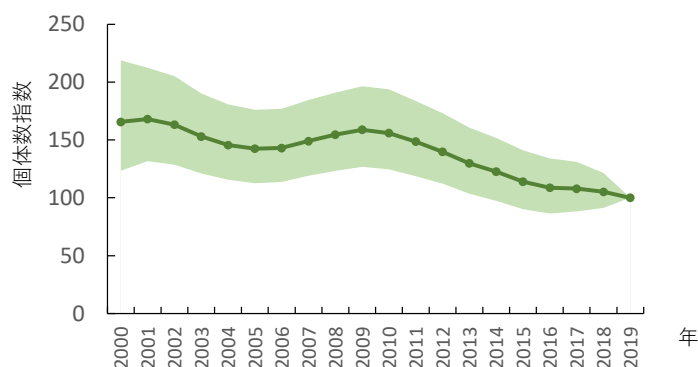


Fig3. 春期のチュウシャクシギ最大個体数指数の動向（2000-2019年）

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:キアシシギ(守屋年史) 2020年 春期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター

<http://www.biodic.go.jp/moni1000/>

編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

<http://www.bird-research.jp/>

編集者 守屋年史

電話/Fax:042-401-8661

メール: shigichi@bird-research.jp